

令和2年度

若狭町立明倫小学校 学校評価



【学力】

項目	重点目標	評価の観点	評価	評価の基準	結果	割合	数値化	評価者	
					人数	%	A+B		
確かな学力（未来を拓く生きる力）	自ら進んで学ぶ子の育成	・子ども主体の学習になるよう教材や複式指導等を工夫した。 (取組指標・・・100%)	1	【授業改善】	6			100%	教職員
			A	さまざまな工夫や改善を行った	3	50%			
			B	ある程度の改善を試みた	3	50%			
			C	あまり工夫や改善を行わなかった	0	0%			
		D	工夫や改善を行わなかった	0	0%				
		2	【グループ学習・間接指導】	34			100%	児童	
		A	人の話をよく聴いて進んで授業に参加できた	15	44%				
		B	人の話をだいたい聴いて授業に参加できた	19	56%				
		C	人の話をあまり聴かず授業にもあまり参加できなかった	0	0%				
		D	人の話を聴かず授業にも参加できなかった	0	0%				
		3	【言語活動の充実】	6			100%	教職員	
		A	多様な場面で言語活動を取り入れた取組を行った	3	50%				
		B	授業で言語活動の向上を図った	3	50%				
		C	言語活動はある程度取り入れた	0	0%				
		D	言語活動はあまり取り入れられなかった	0	0%				
		4	【言語能力の向上】	34			100%	児童	
	A	すすんで発表することができた	20	59%					
	B	ときどき 発表することができた	14	41%					
	C	あまり発表することができなかった	0	0%					
	D	発表することはできなかった	0	0%					
	学習ルールの確立	・学習ルールの徹底を図れた。 (取組指標)	5	【学習ルール徹底の取組】	6			100%	教職員
			A	学習ルールを徹底することができた	1	17%			
			B	ある程度学習ルールを徹底できた	5	83%			
			C	あまり学習ルールを徹底できなかった	0	0%			
			D	学習ルールを徹底できなかった	0	0%			
		6	【学習ルールを守る】	34			85%	児童	
		A	学習ルールをしっかり守ることができた	14	41%				
		B	学習ルールをだいたい守ることができた	15	44%				
C		学習ルールをあまり守れなかった	5	15%					
D		学習ルールを守れなかった	0	0%					
◎基礎基本の定着	・授業内容がよく分かった。 (成果指標・・・90%)	7	【学習内容の理解】	34			100%	児童	
		A	授業の内容がよく分かった	21	62%				
		B	授業の内容がだいたい分かった	13	38%				
		C	授業内容はあまり分からなかった	0	0%				
	D	授業内容が分からなかった	0	0%					
	8	【家庭学習の様子】	34			74%	保護者		
	A	すすんで家庭学習に取り組み、目標時間までできていた	7	21%					
	B	家庭学習に取り組み、だいたい目標時間までできていた	18	53%					
	C	家庭学習に取り組み、ときどき目標時間までできていた	4	12%					
	D	家庭学習はしているが、目標時間まではできていない	5	15%					
	9	【学習内容の理解】	34			94%	保護者		
	A	学習内容をよく理解しているようだ	12	35%					
B	学習内容をだいたい理解しているようだ	20	59%						
C	学習内容があまり理解できていないようだ	2	6%						
D	学習内容を理解できていない	0	0%						
読書活動の推進	・児童の読書活動を推進した。 (成果指標)	10	【読書活動の推進】	5			80%	教職員	
		A	さまざまな取組を行った	2	40%				
		B	ある程度の取組を行った	2	40%				
		C	あまり取組を行わなかった	1	20%				
		D	ほとんど取組まなかった	0	0%				
	11	【読書活動への意欲】	34			91%	児童		
	A	すすんで読書することができている	23	68%					
	B	ときどき 読書に取り組んでいる	8	24%					
	C	あまり読書することができていない	2	6%					
	D	ほとんど読書することができていない	1	3%					
	12	【家庭での読書の様子】	34			47%	保護者		
	A	お子さんは毎週週末読書に取り組んでいる	7	21%					
B	お子さんはだいたい週末読書に取り組んでいる	9	26%						
C	お子さんはあまり週末読書に取り組めていない	8	24%						
D	お子さんはほとんど週末読書に取り組めていない	10	29%						

【心】

項目	重点目標	評価の観点	評価	評価の基準	結果	割合	数値化	評価者	
					人数	%	A+B		
豊かな心 (明るい心・やさしい心・奉仕の心)	◎気持ちのよいあいさつ	・元気な挨拶や返事ができるよう、各学期1回以上「挨拶週間」の取組を行った。 (成果指標)	13	【挨拶等の指導】	7			100%	教職員
			A	年4回以上、元気な挨拶や返事の取組を行った	6	86%			
			B	年3回、元気な挨拶や返事の取組を行った	1	14%			
			C	年1～2回、元気な挨拶や返事の取組を行った	0	0%			
		D	元気な挨拶や返事の指導が不十分であった	0	0%				
		14	【挨拶の様子】	34		94%	児童		
		A	自分から進んで挨拶をすることができた	23	68%				
		B	挨拶ができた	9	26%				
		C	あまり挨拶ができなかった	2	6%				
		D	挨拶ができなかった	0	0%				
		15	【挨拶の様子】	34		88%	保護者		
		A	進んで挨拶をすることができていた	12	35%				
		B	挨拶ができていた	18	53%				
		C	あまり挨拶ができなかった	4	12%				
		D	挨拶ができなかった	0	0%				
		16	【挨拶の様子】	6		100%	地域		
	A	進んで挨拶をすることができていた	5	83%					
	B	挨拶ができていた	1	17%					
	C	あまり挨拶ができなかった	0	0%					
	D	挨拶ができなかった	0	0%					
	望ましい集団づくり	・縦割り班活動や学級活動等で、多様性を認める相互理解教育に取り組んだ。 (取組指標)	17	【相互理解教育の推進】	5		100%	教職員	
			A	相互理解教育をしっかりと推進した	1	20%			
			B	相互理解教育を推進した	4	80%			
			C	あまり相互理解教育を推進できなかった	0	0%			
		D	相互理解教育を推進できなかった	0	0%				
		18	【集団活動】	34		97%	児童		
		A	色々な友達と進んで仲良くしたり助け合ったりできた	21	62%				
		B	友達と仲良くしたり助け合ったりできた	12	35%				
C		友達とあまり仲良くしたり助け合ったりできなかった	1	3%					
D		友達と仲良くしたり助け合ったりできなかった	0	0%					
19		【学校生活の満足度】	34		100%	児童			
A		学校での生活がとても楽しい	18	53%					
B	学校での生活はまあまあ楽しい	16	47%						
C	学校での生活はあまり楽しくない	0	0%						
D	学校生活は楽しくない	0	0%						
20	【学校生活の満足度】	34		100%	保護者				
A	学校生活は毎日楽しそうだ	19	56%						
B	学校生活はまあまあ楽しそうだ	15	44%						
C	学校生活はあまり楽しくないようだ	0	0%						
D	学校生活は楽しくないようだ	0	0%						
人権教育の充実	・悪口を言ったり仲間外しをしたりしていないかった (成果指標)	21	【望ましい集団】	34		94%	児童		
		A	誰とでも仲良く活動することができていた	19	56%				
		B	悪口や仲間外しはしなかった	13	38%				
		C	時々、悪口を言った	2	6%				
	D	悪口や仲間外しが多かった	0	0%					
	22	【望ましい集団】	34		91%	保護者			
	A	誰とでも仲良く活動することができていた	24	71%					
	B	悪口や仲間外しはしていないかった	7	21%					
	C	時々、悪口を言っていた	3	9%					
	D	悪口や仲間外しが多かった	0	0%					
23	【教育相談の実施】	5		100%	教職員				
A	とても充実した教育相談を実施できた	3	60%						
B	おおむね充実した教育相談を実施できた	2	40%						
C	あまり充実した教育相談はできなかった	0	0%						
D	教育相談ができなかった	0	0%						

【体】

項目	重点目標	評価の観点	評価	評価の基準	結果	割合	数値化	評価者	
					人数	%	A+B		
健やかな体 (体力・運動能力)	◎運動に親しむ資質や能力の育成	・授業や業間以外でも、すすんで運動や体を使った遊びを楽しむことができた。 (成果指標・・・90%)	24	【運動への意欲・体力作り】	34			97%	児童
			A	すすんで運動遊びをした	23	68%			
			B	まあまあ運動遊びをした	10	29%			
			C	あまり運動遊びをしなかった	1	3%			
		D	ほとんど運動遊びをしなかった	0	0%				
		・放課後や休日にも楽しく遊びながら体を動かしていた。 (満足指標・・・90%)	25	【休日のスポーツや遊び】	34			74%	保護者
			A	家庭でもよく遊び、体を動かしていた	11	32%			
			B	家庭でも時々体を動かす遊びをしていた	14	41%			
			C	家庭ではあまり体を動かす遊びをしていなかった	8	24%			
		D	家庭ではほとんど体を動かしていなかった	1	3%				
		・児童がすすんで運動に親しむように指導を工夫した。 (成果指標・・・90%)	26	【マラソンカード・遊びの場づくり等】	5			100%	教職員
			A	すすんで運動に親しむように工夫した	3	60%			
	B		まあまあ工夫した	2	40%				
	C		あまり工夫できなかった	0	0%				
	D	運動に親しむような工夫ができなかった	0	0%					
	安全教育の充実	・校内や地区で健康や安全に気をつけて行動できた。 (成果指標・・・90%)	27	【安全な行動】	34			100%	児童
			A	いつも安全に気をつけて行動することができた	24	71%			
			B	安全にまあまあ気をつけた	10	29%			
			C	安全に行動することがあまりできなかった	0	0%			
		D	安全な行動ができなかった	0	0%				
		・登下校や地域内での自転車走行など、児童は安全に留意して行動していた。 (満足指標・・・90%)	28	【安全な行動】	34			100%	保護者
			A	児童は交通安全に十分気をつけて行動していた	14	41%			
			B	児童は交通安全にまあまあ気をつけていた	20	59%			
			C	児童はあまり交通安全に留意しているとは言えない	0	0%			
D		児童は交通安全に留意できなかった	0	0%					
・登下校や地域内での自転車走行など、児童は安全に留意して行動していた。 (満足指標・・・90%)		29	【安全な行動】	6			100%	地域	
		A	児童は交通安全に十分気をつけて行動していた	3	50%				
	B	児童は交通安全にまあまあ気をつけていた	3	50%					
	C	児童はあまり交通安全に留意しているとは言えない	0	0%					
D	児童は交通安全に留意できなかった	0	0%						
・安全教育の指導を充実させた。 (取組指標・・・90%)	30	【安全な行動】	7			100%	教職員		
	A	年間計画に位置づけ継続して指導を行った	2	29%					
	B	年間計画に位置づけ継続してある程度指導を行った	5	71%					
	C	あまり指導を行わなかった	0	0%					
D	指導を行わなかった	0	0%						
健康的な生活習慣の定着	・生活実行カレンダーや生活チェックなどをいかして、健康的な生活が送れるよう指導した。(今年度は「早寝」を重点的に) (取組指標・・・90%)	31	【生活習慣】	6			100%	教職員	
		A	個別指導も取り入れ健康的な生活習慣の定着を図った	3	50%				
		B	全体指導を中心に健康的な生活習慣の定着を図った	3	50%				
		C	あまり指導はできなかった	0	0%				
	D	指導はできなかった	0	0%					
	・生活実行カレンダーや生活チェックなどをいかして、健康的な生活が送れるようになっている。 (成果指標・・・90%)	32	【生活習慣】	34			85%	児童	
		A	いつも早寝ができています	15	44%				
		B	だいたい早寝ができています	14	41%				
		C	あまり早寝ができませんでした	4	12%				
	D	ほとんど早寝ができませんでした	1	3%					
	・児童は生活実行カレンダーや生活チェックなどをいかして、健康的な生活をしようとしていた。 (満足指標・・・90%)	33	【生活習慣】	34			88%	保護者	
		A	いつも早寝ができています	14	41%				
B		だいたい早寝ができています	16	47%					
C		あまり早寝ができませんでした	3	9%					
D	ほとんど早寝ができませんでした	1	3%						

【ふるさと】

項目	重点目標	評価の観点	評価	評価の基準	結果	割合	数値化	評価者	
					人数	%	A+B		
家庭・地域との連携 ふるさとを愛する心	ふるさとと教育の推進・家庭・地域・他校との連携	・家庭との連絡を密にして教育活動に取り組んだ。 (取組指標・・・100%)	34	【家庭との連携】	7			100%	教職員
			A	しっかり取り組んだ	6	86%			
			B	まあまあ取り組んだ	1	14%			
			C	あまり取り組めなかった	0	0%			
			D	取り組めなかった	0	0%			
		・学校(担任)から必要な情報(連絡)が届いている。 (満足指標)	35	【家庭との連携】	34			97%	保護者
			A	十分あてはまる	18	53%			
			B	あてはまる	15	44%			
			C	あまりあてはまらない	0	0%			
		・学校と地域の人々が触れ合える活動が実施されていた。 (満足指標)	36	【地域との連携】	6			33%	地域
			A	十分あてはまる	1	17%			
			B	あてはまる	1	17%			
	C		あまりあてはまらない	3	50%				
	・地域の体験活動や他校との交流学习は、楽しかった。 (成果指標)	37	【学校以外の人とのかかわり】	34			100%	児童	
		A	とても楽しかった	28	82%				
		B	楽しかった	6	18%				
		C	あまり楽しくなかった	0	0%				
	・地域の体験活動や交流活動を3回以上実施した。 (取組指標・・・90%)	38	【地域などとの交流活動】	5			80%	教職員	
		A	3回以上実施した	2	40%				
		B	2回実施できた	2	40%				
		C	1回しか実施しなかった	1	20%				
	・ふるさとのいいところや自慢が言える。 (成果指標・・・80%)	39	【ふるさとを大切に思う気持ちの育成】	34			62%	児童	
		A	ふるさとのいいところや自慢を具体的に3つは言える	15	44%				
		B	ふるさとのよさや自慢を2つは言える	6	18%				
C		ふるさとのよさや自慢を1つは言える	5	15%					
関係機関との	・関係機関との連携を密にして教育活動ができた。 (成果指標・・・90%)	40	【関係機関との連携】	7			100%	教職員	
		A	連携を大切にして十分取り組んだ	5	71%				
		B	連携を大切にしてまあまあ取り組んだ	2	29%				
		C	関係機関とあまり連携できなかった	0	0%				
情報モラル教育の推進	・TVゲームやネットの約束を守っている。 <8時以降はしない 毎週火曜日はノーゲーム> (成果指標)	41	【ネットの約束】	34			74%	児童	
		A	よく守っている	18	53%				
		B	だいたい守っている	7	21%				
		C	あまり守ってない	7	21%				
	・TVゲームやネットの約束を守っていた。 <毎週火曜日> (満足指標・・・90%)	42	【ネットの約束】	34			76%	保護者	
		A	よく守っている	20	59%				
		B	だいたい守っている	6	18%				
		C	あまり守ってない	3	9%				
		D	守れていない	5	15%				

コ メ ン ト	
低学年保護者	メールでの学校からの連絡について、もう少し早めに知らせてもらえるといいなと思うことがあったので、今後考慮していただければ、と思います。
低学年保護者	毎日、ゲームばかりするので、どうやってゲームをさせないようにするか、頭を悩ませています。ゲームをするようになってから以前は好きだった外遊びをほとんどしなくなりました。
中学年保護者	毎日ゲームばかりして、体を動かすことをほとんどしません。ゲームは、最近は課金までするようになってしまい、注意すると、お友達は何千円も課金しているからと、不満そうにしています。
高学年保護者	どうしても親がいない時にゲームの時間が長くなっているようで…。 楽しいのはわかるので、何とか時間配分 自分で決めて守れる方法ないですかね…。
地域	本年度は、コロナの現状で、すべての活動が中止のため、児童とのふれあいは、ほとんどなかった。(唯一、体育大会のみ)先生方に感染防止に努めて頂いて、大変な中、安心して児童が学校生活を送れていることに感謝です。ありがとうございます。
地域	コロナ禍の中で、学校の先生方、家庭の奮闘が運動会の様子から見られました。ありがとうございました。
地域	コロナの関係でなかなか子供達が地域の人と一緒にを行う行事に取り組めない状況が続いています。その中で体育大会やマラソン大会で、子供達の様子を見せていただくと、小さい学校ながら一生けん命頑張っているなあと思っています。先生方もご苦な事が多いと思いますが、頑張ってくださいと思います。
地域	休みの日でも会うと元気に挨拶ができています。今の気持ちを何年経っても忘れずにいてほしいです。
地域	運動会への招待ありがとうございました。 少人数なりの工夫が見られ、児童も緊張感の中、楽しくやっている姿を見て気持ちのよい半日でした。先生方の御指導の御苦勞が伺え、頭が下がる思いでした。
地域	ふるさと問36【地域などとの交流】のD評価について 今年はコロナの影響も有り、仕方ないと思います。

## 学校評価を受けての改善点

### <確かな学力>

6 学習ルールを守って学習に取り組めた。【対象：児童】（成果指標…90%）

- A 学習ルールをしっかり守ることができた（41%）
- B 学習ルールをだいたい守ることができた（44%）
- C 学習ルールをあまり守れなかった（15%）
- D 学習ルールを守れなかった（0%）

Cと回答した児童は、「姿勢が悪かった」等、厳密にした児童がいたためと考えられる。これは、通常の指導により児童の自覚が高まり、自分に厳しく回答したといえる。今後、この意識を継続するように指導も続け、向上に向かわせていきたい。

8 学年に応じた家庭学習をする習慣がついている。【対象：保護者】

- A すすんで家庭学習に取り組み、目標時間までできていた（21%）
- B 家庭学習に取り組み、だいたい目標時間までできていた（53%）
- C 家庭学習に取り組み、ときどき目標時間までできていた（12%）
- D 家庭学習はしているが、目標時間まではできていない（15%）

昨年度よりは、A+Bの割合は増えている。

高学年になるにつれ、保護者の目につかないところで学習していることがある。

生活チェックの結果としては、十分（97%）に家庭学習の時間を守っている。

今後、生活チェックを行うときに、「学年×10分」ということを再認識させて取りませることや、家庭での声かけ等の協力を依頼することも必要である。

12 週末読書に進んで取り組んでいる。【対象：保護者】（満足指標…80%）

- A お子さんは毎週週末読書に取り組んでいる（21%）
- B お子さんはだいたい週末読書に取り組んでいる（26%）
- C お子さんはあまり週末読書に取り組めていない（24%）
- D お子さんはほとんど週末読書に取り組めていない（29%）

児童の成果指標は91%（A+B）であるが、保護者の満足指標は47%（A+B）であり、大きな差が見られる。昨年度も同じような傾向が見られた。週末読書の徹底とともに、保護者への啓発が必要かと思われる。連絡帳の日記欄を活用し、週末については週末読書の感想を記入し、保護者のサインをもらい、感想について親子間で話し合う機会をもってもらうように協力をお願いする。（今年度3学期から取り組む予定）

### <豊かな心>

14 友達や先生、お家の人や地域の人に、自分から元気よく挨拶をしたり返事をしたりできた。【対象：児童】（成果指標・・・85%）

- A 進んで挨拶をすることができていた（68%）
- B 挨拶ができた（26%）
- C あまり挨拶ができなかった（6%）
- D 挨拶ができなかった（0%）

昨年度（89%）を上回り、地域の方からの評価も高いことから、元気よくあいさつができる児童が増えていることがわかる。今年度は挨拶の励行に向けた積極的な活動ができなかったが、それでも割合が上がったのは児童の努力に依るところが大きい。ただ、登下校中の様子を見ていると、進んで挨拶ができていない児童が依然見られる。また、家庭内で挨拶があまりできていないと回答している保護者も10%以上いて、家庭・地域・学校のどこでも、自分から気持ちのよい挨拶ができるように、呼びかけを続けている。

21 悪口を言ったり仲間外しをしたりしていなかった。【対象：児童】

- A 誰とでも仲良く活動することができていた (56%)
- B 悪口や仲間外しはなかった (38%)
- C 時々、悪口を言った (6%)
- D 悪口や仲間外しが多かった (0%)

友達の悪口を言ったと答えた児童が6% (2名) おり、複数の保護者から家で悪口を言っていたという回答があり、わずかな割合であっても見過ごせない結果が見られた。文部科学省は「いじめはどの学校でも一定数認知されるのが当然である」として、積極的に認知し、適切に対応するよう学校に求めている。今年度、本校でも児童間のトラブル事案があった。当該児童への指導はもちろん、仲間づくりの活動などの手立てを講じたり、保護者とも連携して対応したりしたことで現在はそのような行為はなくなっている。今後も学校全体で、相手が嫌な思いをする発言や行為は許されることではないことを指導し、どの子ども学校に通うのが楽しいと思える環境作りに努めていく。

### <健やかな体>

90%の指標を達成できなかった項目は「放課後や休日も楽しく遊びながら体を動かしていた(保護者)」と「健康的な生活が送れるようになっていく(児童)」と「健康的な生活をしようとしていた(保護者)」の3つである。これらの課題の原因となっているのは「メディア(動画、ゲームなど)」であると考えられる。「メディア」に接する時間を減らすように、児童や保護者に啓発する必要がある。「安全教育の充実」に関する項目の数値(A+B)はすべて100%である。

### <ふるさとを愛する心>

38 ふるさとのいいところや自慢が言える【対象：児童】(成果指標・・・80%)

- A ふるさとのいいところや自慢を具体的に3つは言える (44%)
- B ふるさとのよさや自慢を2つは言える (18%)
- C ふるさとのよさや自慢を1つは言える (15%)
- D ふるさとのよさや自慢を言えない (24%)

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域交流行事を実施することが難しかった。そのことは上記アンケート結果にも表れており、「ふるさとのよさや自慢が言えない」児童が昨年より4%増加している。令和4年度に統合を控え、来年度をもって閉校となるからこそ、コロナ禍であってもふるさとを愛する心の育成に力を入れていきたい。

#### 家庭・地域・学校協議会より

交流行事はできなくても、地域の偉人や活躍した先輩、素晴らしいところを学習することで、ふるさとのよさを感じたり、誇りを持ったりすることができる。統合を控えているからこそ、そのような学習にしっかりと取り組んでほしい。

15、16 TVゲームやネットの約束について【対象：児童】、【対象：保護者】(満足指標80%)

	児童	保護者
A よく守っている	53%	59%
B だいたい守っている	21%	18%
C あまり守れなかった	21%	9%
D 守れなかった	6%	15%

A・B合わせて74%の児童が「TVゲームやネットの約束を守っている」と答えており、昨年度の94%から大きく減少している。新型コロナによる休校措置がきっかけとなったことが考えられる。「守れなかった」は、保護者15%に対して児童6%と食い違いが見られ、自覚のないままメディアと長時間接している児童もいるようだ。家庭での過ごし方や家庭間でもルールを決めることなどを啓発するなど学校と家庭と連携しながら、児童にメディアとの望ましい付き合い方を身につけさせていきたい。

#### 家庭・地域・学校協議会より

ゲームとICT活用は分けて考えていくべきである。学校と家庭が、ルール作りなどで話し合える関係にしていくことが大切。